

合併後の行政のあり方にさまざまな提案

総務常任委員会(19日~21日)で杉本敏宏議員

総合事務所長の位置づけは？

総合事務所長の処遇に多くの方が疑問を持っています。所長が市役所の課長になると地域の人たちは、「降格になった」と思います。合併協議では、総合事務所長は、「部長と課長の間」となっていたはずですが、どうなっていますか。

杉本敏宏議員の問いかけに、三上総務部長は、次のように答えました。

部長と課長の中間の権限を持った役職が「所長」です。所長は、課長以上の権限を持つ重要な役職です。その権限を十分に発揮して、地域住民のために仕事をしてもらいたいと思っています。

杉本議員は、「回りの人たちから、『降格』と写らないような人事のあり方を検討していただきたい」と、要望しました。

合併の「成果」が見えない決算書

今議会のメインテーマは、平成17年度決算の審査です。「決算の概要」には、各事業の成果や課題などがコンパクトにまとめられています。これ自体、他の自治体にはないもので、おおいに評価すべきものです。しかしそれが、通常の年のものとあまり変わらないので、次のように指摘しました。

皆さんは今回の合併を推進されました。それなのに、「合併後最初の通年決算」といいながら、「合併の成果がどこにも書かれていません。」「合併の成果」がなければ、「何のための合併だったんだ」ということになってしまいます。それでは皆さん、困るのではないですか。

「合併」したということの意識が希薄な感じがしました。



た議論でした。

各区の変化をはかる指標は

合併するといろいろな統計が、新上越市一本にまとめられてしまいます。各区ごとにはわかるのは、国勢調査くらいで、農業生産がどう推移しているのか、工業出荷額はどうか、商業は……。これは各「区」にはわからなくなってしまう。

「合併で周辺がさびれる」ことが心配されています。「そんなことはないよ」ということを示すためにも、各「区」ごとの各種統計が必要です。また、何がどう変わったのかをつかむことは、地域の政策を立てる上でも、必要だと思います。

「検討してみます」との答弁でした。

減らない解同への補助金

部落解放同盟に三百万円もの補助金が、ずっと出ています。

「すべての分野で、補助金を見直す」として、どこでもバッサリと削られています。しかし、解同への補助金だけが一円も削られていません。これでは逆差別です。

人権問題でも「同和」だけが特別扱いされています。こうした風潮は正さなければなりません。

何人かの議員が、同じような認識を示すという「変化」が見られ

どんななる厚生南会館

「老朽化が激しく、毎日見回りをしています」(当局の説明)という厚生南会館の取り壊しは、やむを得ないことです。

問題は、厚生南会館がこれまで果たしてきた役割機能をどう残すかということです。市は「他の既存の施設で」といいますがこれには無理があります。

公募市民を含めた検討委員会を設けて、広く意見を求めるべきではないですか。

躊躇しつつ、「検討してみます」という答弁でした。

市民共観上越市議会ニュース

65	2006年10月1日
連絡先	杉本敏宏 524-3787 (東本町5)
	樋口良子 544-6802 (中門前3)
	橋爪法一 548-3628 (吉川区代石)
事務局長	上野公悦 530-2203 (頸城区中柳町)